

議 事 録

目 的	第4回尾鷲市総合計画審議会 部会協議
-----	--------------------

日 時	平成28年8月25日(木) 19:00~20:40
-----	---------------------------

場 所	本庁3階 第2・3委員会室
-----	---------------

部 会 名	第1部会
-------	------

内 容	<p>○出席者 委員：與谷 公孝（部会長）、今村 澄子、岩崎 恭典、田崎 祐一、玉乃井 耕二 市：市民サービス課：濱田課長、防災危機管理室：神保室長、三重紀北消防組合：久保補佐 市長公室：大和室長、高濱事務員 コンサルタント：(株)日本開発研究所三重：館部長</p> <p>○主な協議等内容 ・次回開催日 平成28年9月30日(金) 19時～ ・質疑応答 以下のとおり</p> <p>進行：部会長 與谷 公孝 氏</p> <p>○質疑 【「重点的な取り組み」について】 委員：おわせ応援団作りは前期の間に実績はあるのか。「次代を担う人づくり」「地域を支える人づくり」「産業を支える人づくり」は目指す姿であるが、「おわせ応援団づくり」は具体的に示してもいいのではないかと。</p> <p>大和室長：形としては現状ない。協力していただいている団体としては、中京圏や関西圏にある尾鷲高校卒業生による鷲友会や、三重県人会、東京おわせ会等がある。ただ、尾鷲応援団としての組織ではないため、今後具体化していきたい。</p> <p>委員：ふるさと納税やヤーヤ便の関係も含め検討してもらいたい。</p> <p>大和室長：ふるさと納税やヤーヤ便で応援してくれた人とも関係をつなげて応援団づくりを明確にしていく。</p> <p>委員：地域を支える人づくりというのは、地域の特産や郷土料理を利用するということか。</p> <p>委員：そういうことが今回新たに示されたということなのではないか。尾鷲には「虎の尾」等の名産がある。そういったものが、地域で消費できるようになるよう観光以外にも産業として生かしていければいい。</p> <p>大和室長：食のまちづくり基本計画に「食で攻める」、「食で守る」という基本目標がある。今の意見は「攻める」部分になる。生まれてくる子たちに魚食文化を広げるといのは「守る」部分になる。</p>
-----	--

委員：地域を支える人づくりの中でせっかく「食」でやって行こうとしているのだから、食を通じて健康寿命を延ばすということを目指するのもいいのではないか。

大和室長：取り組み自体は、福祉保健課にて「健康弁当」という取り組みがある。総合計画でどこまで記載するのかということもある。

委員：たまたま尾鷲に立ち寄った人に食べてもらうということもあるが、年相応に調理し、全員で健康寿命を延ばそうという目標があってもいいと思う。

委員：確かに、尾鷲の名産品でも実際食べたことがない人は多い。もっと身近に感じる取り組みは必要かもしれない。

委員：九鬼では地域おこし協力隊の活動もあって、注目を浴びている。

委員：九鬼の「網干場」を通じて、市民の寄り場ができたことは大きい。この活動が各浦々にあれば、健康にも良い。テレビの影響もあるが、他市町から人を集めて地域を潤すというのは一つの理想の形だし、求めている。

委員：他の試みとして移住体験住宅もある。現在、地域おこし協力隊の方には、町内会長や自主防災会長もしてもらっている。

委員：こういった試みによる効果なのか防災訓練にも活気がある。

【111 市民参加によるまちづくり】

委員による質疑応答なし。

【112 情報共有化の推進】

委員：情報把握はどういうことを行っていくつもりなのか。

大和室長：主な取り組みの中で、示しているとおおり、懇談会の中で広聴していく。行政が待っていても市民からの意見は少なく、こちらから働きかける。ただ、市民の方々にも参加していただく双方向の取り組みが必要である。

濱田課長：市民相談の中で、どういった意見があるのか聞いていくことも必要であれば行っていきたい。

委員：エリアワンセグ等で情報を流すのはどうなのか。現在だと文字が出て入れ替わるだけ。防災訓練などを録画してダイジェスト版にまとめて流すのはどうか。

大和室長：映像を流すのは検討していきたい。ただ、編集をどうするのかということに関しては、今後の課題である。

【113 市民参加による防災対策】

委員：南海トラフ巨大地震が発生した際にどう取り組むのかを復興計画も含め「主な取り組み方針」に明記すべきではないか。

神保室長：前回も頂いた意見ではあるが、地域防災計画の中で取り組んでいく事であり、総合計画への記載について、防災危機管理室としての文言はこれでいいと考えている。

委員：まちの再建にもかかってくる。尾鷲市の計画のどこかには入れるべき事柄である。

委員：地域防災計画の中に項目として入っているから、総合計画には入れなくても問題ないという判断

なのか。

神保室長：防災計画の中では、地域防災計画が最上位計画であり、別枠として考えて行きたい。総合計画の中で考えると意味合いが変わってくる。

委員：復興計画をつくるとなると、全課にまたがる。被災地では、地籍調査等の問題もある。

大和室長：地籍調査に関して尾鷲市は遅れている。「関連する計画」の中に地域防災計画は位置づけられている。地域防災計画の中に復興計画はある。ただし、内容に関してはこれからという段階である。総合計画には、主な取り組み方針の中で、復興計画の作成に向けた取り組みを行うといった程度の記載を検討頂きたい。

委員：防災計画は部門別計画であり、全体に関わる計画であるため、いわば「第二の総合計画」のようなものであるが、総合計画の中では、リンクした計画をつくるような書き方は出来ると思う。

神保室長：地域防災計画とリンクした取り組みを行うというような記載は検討させていただく。

委員：主な取り組み方針の「市は防災意識を高揚し…」、「市民は避難経路の確認や備蓄品の確保…」とある。また、尾鷲市には「津波は逃げるが勝ち」とあるが、どう取り組んでいるのか。

委員：市民に対しては自主防災会の働きかけによって取り組んでいる。しかし、個人情報などにより、限界がある部分もある。備蓄品に関しては、自主防災会で購入している。須賀利や輪内では意識も高いが、旧町内では、意識啓発も必要である。

神保室長：住民主導で避難路の確認や備蓄品の把握を行っていただくことが大事であり、その為の取り組みを行っている。

【114 消防・救急体制の整備】

委員による質疑応答なし。

【115 防犯対策の推進】

委員による質疑応答なし。

【116 交通安全対策の推進】

濱田課長：ミルミルウェブの注釈に関しては次回以降お示しさせていただく。また、前回、意見のあった高齢者への取り組みとして、「主な取り組み方針」5項目目に、高齢者への講習参加の促進や、マーク貼り付けの啓発などを追加させていただきたい。文言については次回お示しさせていただく。

【121 人権尊重社会の実現】

委員：事業評価に「啓発活動を行っているが、同じ事を繰り返すばかりではなく、手法などの再検討を行うこと」とあるが、どう取り組むつもりなのか。

濱田課長：旧町内だけではなく各地域の集会所を活用するなど、活動の幅を広げていく取り組みを検討している。

【122 男女共同参画の推進】

委員：「人権尊重社会の実現に対する満足度」の指標とは別の指標にするべきではないか。

高濱事務員：前回策定時点では同じ指標であったが、今回から「122」の指標を「男女共同参画に対する満足度」とし、「121」と切り離し示していきたい。

委員：男女共同参画に関しては、男性が家事を手伝う等、啓発しなくても行っている部分はあるが、より推進してほしい。

委員：男性の家事参加も大事だが、女性の上昇志向の啓発も大事だ。行政としても率先して取り組んでほしい。

委員：次回は9月30日（金）開催予定である。

以上